

医療・福祉産業活性化

新居浜高専と 連携協定締結

松山リハビリ病院

松山リハビリテーション病院（松山市高井町）と新居浜工業高専（新居浜市八雲町）が6日、医療・福祉産業と地域の活性化などで連携協定を結んだ。継続的な意見交換や技術開発を通して、ものづくり人材を育成し、より良い医療サービスの実現を目指す。

協定では、障害者らを支援するアシスティブテクノロジー（AT）技術者、デ



ジタルトランスフォーメーション（DX）人材の育成や、教育・文化の振興での協力を明記した。両者は10年ほど前から、リハビリで使うトレーニング用クッションや、声で押せるナース

コールなどを共同開発し、医療現場で活用。今後はシニアカー用シミュレーターの発表も予定している。

同病院で協定締結式があり、木戸保秀理事長・院長は「使い手の気持ちに寄り添った手作り感のあるリハビリ工学と一緒に考えていきたい」とし、鈴木康司校長は「双方が持つ知的・人的資源や情報を活用すれば、新しい成果を見続けられると確信し

協定書にサインする松山リハビリテーション病院の木戸保秀理事長・院長（左）と新居浜工業高専の鈴木康司校長

11月6日午後、松山市高井町

ている」と語った。

（増田有梨）